



2021年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年10月9日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社ヤマザワ
コード番号 9993 URL <https://yamazawa.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 古山 利昭
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐藤 慎三 TEL 023-631-2211
四半期報告書提出予定日 2020年10月12日 配当支払開始予定日 2020年11月2日
四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第2四半期の連結業績（2020年3月1日～2020年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第2四半期	57,683	5.0	1,477	504.5	1,488	482.3	837	1056.6
2020年2月期第2四半期	54,923	△1.7	244	20.7	255	13.7	72	△28.4

(注) 包括利益 2021年2月期第2四半期 850百万円 (946.3%) 2020年2月期第2四半期 81百万円 (△22.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第2四半期	76.86	76.79
2020年2月期第2四半期	6.65	6.64

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第2四半期	51,040	28,866	56.5
2020年2月期	50,284	28,162	56.0

(参考) 自己資本 2021年2月期第2四半期 28,850百万円 2020年2月期 28,146百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期	—	13.50	—	13.50	27.00
2021年2月期	—	13.50	—	—	—
2021年2月期（予想）	—	—	—	13.50	27.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2021年2月期の連結業績予想（2020年3月1日～2021年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	113,000	3.0	1,700	171.0	1,800	157.7	700	—	64.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年2月期2Q	10,960,825株	2020年2月期	10,960,825株
② 期末自己株式数	2021年2月期2Q	60,922株	2020年2月期	60,890株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年2月期2Q	10,899,922株	2020年2月期2Q	10,895,013株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、世界経済の悪化とともに、厳しい状況下で推移いたしました。

小売業界におきましては、感染への懸念、収入減少の中、生活防衛意識の異常なまでの高まりにより、業種・業態によって需要動向が明確に分かれました。特に食品小売業におきましては、マスクをはじめとする感染予防関連商品および学校休校による内食需要の高まりを受けた生鮮食品の伸長、まとめ買い傾向による客単価の上昇により、業況は良好に推移いたしました。しかしながら、今後の感染動向、内外経済動向の見通しが難しく、取り巻く環境は依然として不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、「毎日の生活に必要な商品を新鮮で美味しく、安く提供する事により、食生活を豊かにし地域社会に貢献する」という経営理念のもと、お客様と従業員の安全を最優先に、新型コロナウイルス感染拡大防止策として、従業員の体調管理体制強化、消毒・清掃の強化、身体的距離の確保、営業時間の短縮等の対策を講じながら、地域のお客様の生活を支える商品の供給、提供に努めてまいりました。そのうえで、「地域のお客様に繰り返しご来店していただける店づくり」に向け、『令和の時代に求められる店づくり』を本年度のスローガンに掲げ、全社一丸となって各施策の実行及び検証を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は576億83百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益は14億77百万円（同504.5%増）、経常利益は14億88百万円（同482.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億37百万円（同1,056.6%増）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

スーパーマーケット事業におきましては、販売企画として、引き続き「生活応援セール」や「水曜均一祭」を実施いたしました。両企画では食料品を中心に買い得商品を多数揃え、販売を強化してまいりました。また、当社が加盟するニチリウグループ（日本流通産業株式会社）のプライベートブランド商品である「くらしモア」や、連結子会社の「株式会社サンコー食品」による当社グループオリジナルの惣菜及び日配商品の拡販を積極的に行ってまいりました。

営業面におきましては、集客強化及び店舗活性化のため、売場づくりの改革と、販促イベントの多様化に取り組みました。売場づくりの改革といたしましては、「今週の一品」と銘打ち、バイヤーこだわりの商品を週ごとに設定、全店で販売を徹底し、よりお客様にご支持いただけるよう努めました。また、2020年3月より加工食品や日用品を中心に商品を厳選した「期間限定スペシャルプライス」商品を販売し、買上点数増を図りました。販促イベントの多様化といたしましては、日曜日のポイント10倍セールに加え、平日のポイント10倍セールの実施、また、青果部門では月初めに「大青果市」を開催し、野菜・果物をお値打ちな価格で販売いたしました。さらに、当社グループ独自の電子マネー機能付きポイントカード「にこかカード」の利用拡大のため、チャージ機利用による特典付与等の販促活動を継続的に実施いたしました。

新規事業といたしましては、株式会社ヤマザワにおきまして、2020年6月より、移動スーパー「とくし丸」事業を開始いたしました。移動スーパー「とくし丸」は、店舗での買い物が難しいお客様の利便性向上を目的とし、販売パートナー（個人事業主）が商品を車に積み込み、依頼された方のご自宅まで伺い、お買物をいただくサービスです。取扱品目は500品程度で、加工食品や日用品の他、チルド商品やアイスクリーム等も取り扱っております。2020年6月に、山形市内におきまして、第1号車の運行を開始いたしました。第1号車の運行エリアは、2019年8月に閉店いたしました「バイパス店」の近隣であり、スーパーの出店が望まれている地域でもありました。特に高齢者の方よりご好評を得ており、今後は他エリアにての運行を随時増やしていく予定です。

設備投資といたしましては、よねや商事株式会社におきまして、2020年3月に「大曲中央店」（秋田県大曲市）を新規開店いたしました。また、株式会社ヤマザワにおきまして、同年5月に「鶴岡茅原店」（山形県鶴岡市）を、既存店舗の「鶴岡宝田店」（山形県鶴岡市）を閉店して、近隣地へ新設移転いたしました。旧店舗である「鶴岡宝田店」と比較して拡充した売場面積を活用し、売上規模も拡大しております。具体的な取組みとしては、ストックキッチン・フレッシュサラダゾーンの展開強化、地元鶴岡市でなじみの商品の豊富な取り扱いや地場野菜コーナー等の販売強化、インスタペーカー及びイートインコーナーの新設等を実施し、地域のお客様からより一層の支持をいただける店づくりを行いました。

既存店の活性化といたしましては、株式会社ヤマザワにおきまして2020年4月に「鶴岡店」（山形県鶴岡市）、同年8月に「成沢店」（山形県山形市）の改装を実施いたしました。なお、株式会社ヤマザワにおきまして、2020年6月に「泉ヶ丘店」（宮城県仙台市）、7月に「高砂店」（宮城県仙台市）、8月に「谷地店」（山形県西村山郡河北町）、「愛島店」（宮城県名取市）を閉店いたしております。

以上によりまして、株式会社ヤマザワの店舗が山形県内41店舗、宮城県内20店舗、よねや商事株式会社の店舗が秋田県内10店舗となり、スーパーマーケット事業の合計店舗数は71店舗（8月末日まで稼働店舗である「愛島店」（宮城県名取市）を含めた店舗数）となりました。

この結果、スーパーマーケット事業の売上高は505億58百万円(同4.8%増)となりました。

ドラッグストア事業におきましては、地域のお客様の「生活の質」の向上に貢献し、快適な生活をサポートするべく、販促活動の強化に取り組むとともに、トータルコストリダクションを推進し、全社一丸となって経費削減活動に取り組みました。

設備投資といたしましては、2020年5月に「ドラッグ鶴岡茅原店」(山形県鶴岡市)を、既存店舗の「鶴岡宝田店」(山形県鶴岡市)を閉店して、近隣地へ新設移転いたしました。ドラッグストアの強みを活かし、医薬品の買回り向上および販売強化、介護・衛生用品の品揃え拡大、接客・カウンセリング力強化等、幅広い世代に対応できる魅力的なお店づくりに取り組みました。また、同年6月には「調剤薬局吉成店」(宮城県仙台市)を開店いたしております。なお、2020年7月に「ドラッグ鶴岡店」(山形県鶴岡市)、「ドラッグ愛島店」(宮城県名取市)、8月に「ドラッグ谷地店」(山形県西村山郡河北町)を閉店いたしております。

この結果、ドラッグストア事業の売上高は71億21百万円(同6.4%増)となりました。

その他事業におきましては、惣菜及び日配商品を開発製造して当社グループへ納品しており、スーパーマーケット事業との連携を密にし、安全・安心で美味しいオリジナル商品の開発を行ってまいりました。

この結果、その他事業の売上高は3百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7億56百万円増加し、510億40百万円となりました。これは主に、固定資産が増加したためです。

負債は、前連結会計年度末に比べ52百万円増加し、221億73百万円となりました。これは主に、未払法人税等が増加したためです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ7億3百万円増加し、288億66百万円となりました。なお、自己資本比率は56.5%となっております。

キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ27百万円減少し、67億15百万円(前連結会計年度末比0.4%減)となりました。

営業活動の結果得られた資金は31億45百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が11億96百万円あったことや、非資金損益項目である減価償却費が12億51百万円あったことによるものです。

投資活動の結果使用した資金は17億4百万円となりました。これは主に、新店舗・設備改修に伴い有形固定資産の取得による支出が18億24百万円あったことによるものです。

財務活動の結果使用した資金は14億67百万円となりました。これは主に、金融機関に対する短期借入金の純減少額が16億円あったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績等を踏まえ検討した結果、2020年7月10日に「2021年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、2020年10月8日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,178	7,150
受取手形及び売掛金	749	771
商品及び製品	4,129	3,862
仕掛品	0	0
原材料及び貯蔵品	97	114
その他	1,461	1,629
貸倒引当金	△1	—
流動資産合計	13,615	13,530
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,883	15,739
土地	13,259	13,155
その他（純額）	3,164	3,283
有形固定資産合計	31,307	32,179
無形固定資産	1,243	1,159
投資その他の資産		
その他	4,121	4,174
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	4,117	4,170
固定資産合計	36,668	37,509
資産合計	50,284	51,040
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,875	7,974
短期借入金	4,550	2,950
1年内返済予定の長期借入金	156	181
未払法人税等	61	513
賞与引当金	321	321
役員賞与引当金	0	0
ポイント引当金	656	655
商品券回収損失引当金	75	55
その他	4,727	5,558
流動負債合計	18,425	18,210
固定負債		
長期借入金	410	774
退職給付に係る負債	386	399
資産除去債務	1,165	1,162
その他	1,733	1,627
固定負債合計	3,696	3,963
負債合計	22,121	22,173

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,388	2,388
資本剰余金	2,208	2,208
利益剰余金	23,590	24,280
自己株式	△69	△69
株主資本合計	28,117	28,808
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11	27
退職給付に係る調整累計額	17	14
その他の包括利益累計額合計	29	42
新株予約権	15	15
純資産合計	28,162	28,866
負債純資産合計	50,284	51,040

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
売上高	54,923	57,683
売上原価	39,942	41,133
売上総利益	14,981	16,550
販売費及び一般管理費		
給料	5,413	5,467
賞与引当金繰入額	314	318
役員賞与引当金繰入額	7	0
退職給付費用	51	52
ポイント引当金繰入額	646	655
減価償却費	1,179	1,215
貸倒引当金繰入額	0	—
その他	7,123	7,362
販売費及び一般管理費合計	14,737	15,072
営業利益	244	1,477
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	7	7
データ提供料	7	13
その他	17	23
営業外収益合計	33	45
営業外費用		
支払利息	6	7
賃貸借契約解約損	9	23
その他	7	3
営業外費用合計	22	34
経常利益	255	1,488
特別損失		
固定資産除却損	5	121
固定資産売却損	—	9
減損損失	—	161
投資有価証券評価損	77	—
特別損失合計	83	292
税金等調整前四半期純利益	172	1,196
法人税、住民税及び事業税	71	448
法人税等調整額	28	△90
法人税等合計	100	358
四半期純利益	72	837
親会社株主に帰属する四半期純利益	72	837

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
四半期純利益	72	837
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	16
退職給付に係る調整額	△0	△3
その他の包括利益合計	8	13
四半期包括利益	81	850
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	81	850
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	172	1,196
減価償却費	1,217	1,251
減損損失	—	161
受取利息及び受取配当金	△9	△8
支払利息	6	7
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△122	249
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,621	98
その他	388	192
小計	4,274	3,148
利息及び配当金の受取額	7	9
利息の支払額	△6	△8
法人税等の支払額	△283	△42
法人税等の還付額	—	37
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,993	3,145
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,089	△1,824
敷金及び保証金の差入による支出	△42	△2
敷金及び保証金の回収による収入	29	44
その他	△57	77
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,159	△1,704
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△670	△1,600
長期借入れによる収入	45	500
配当金の支払額	△147	△147
その他	△264	△220
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,036	△1,467
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,797	△27
現金及び現金同等物の期首残高	5,929	6,742
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,726	6,715

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積もり)

「2021年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の「(追加情報) (新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積もり)」に記載した新型コロナウイルス感染症の影響は、当第2四半期連結会計期間末にかけて徐々に感染拡大前の経営環境となるものと仮定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症による影響が想定以上に継続していることを踏まえ、当連結会計年度末にかけて徐々に感染拡大前の経営環境となるものと仮定して、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積もりを行なっております